

令和4年12月12日 県議会一般質問

①TSMCの波及効果について

中村亮彦質問

TSMCの進出により今後の我が国の半導体産業の命運を占う国家プロジェクトが地元菊陽町で順調に進んでいることを大変うれしく感じている。TSMC進出の波及効果を最大化するにあたり、私は県全体を見渡す大きな視点と、もう一方で進出を受け入れる地域住民の視点という2つの視点を意識する必要があると考えている。そこで、①TSMCの進出をきっかけとした経済効果の最大化のため、どのような企業誘致を進めていくのか、②地域住民や自治体にとってのメリットにはどのようなものがあり、現在地域住民が抱えている不安や心配をどのように改善していくのか、知事に尋ねる。



菊陽町市長の答弁

①TSMC進出による経済波及効果の最大化のためには、市町村や民間企業、金融機関と連携を強め、企業誘致を積極的に展開することが重要。半導体関連企業を県内に幅広く集積させることで、本県の競争力を高め、日本の経済安全保障の一翼を担

本の地域産業に密着した実践的技術者の育成機関としての役割を果たしてきたが、一方、近年では、少子高齢化やAI、ビッグデータ、DX等のデジタル社会の進展など、社会の変化への対応も求められており、既存のキャリアラムの見直しや企業関係者を講師に招いた講義など、地域産業と一体となった人材育成に着手した。あわせて、優秀で多様な学生を確保するため今年度から、新たに事業主推薦、自己推薦や外国人留学生受入れの制度を導入した。そのような中、TSMCの進出を契機として、半導体関連の人材需要はますます増大しており、同校が果たすべき役割の重要性も高まっている。県内の産業界の期待に応えるためにも、さらに魅力ある学校へ飛躍する必要があると認識している。そこで、県では、令和6年4月から、半導体に関する新学科を設置することを目指し、国等と協議を重ねながら、半導体関連のキャリアラムや設備機器の整備など、準備を進めている。また、より優秀な学生を募り、高度な人材を育成するため、4年制大学への編入が可能となるよう、10月に構造改革特別区域法に基づく内閣府への申請を行った。TSMCの本県進出を飛躍の大きなチャンスと捉え、地域社会に貢献し、熊本の産業発展に一層寄与できる学校となれるよう、しっかりと取り組んでいく。



いたい。そのため、国や市町村、不動産関連企業と連携を図り、新たな工業団地の整備や人材の育成、確保、道路をはじめとするインフラ整備等について、全力で取り組んでいく。②TSMCの進出は、投資や雇用といった経済的な効果にとどまらず、固定資産税など税収増加による行政サービスの向上、教育、文化、スポーツにおける国際交流促進など、様々な波及効果を生み出す。また、今後、台湾などからお越しになる方々が安心して生活でき、地域の一員として円滑に受け入れられ、地域住民と交流、共生していくための取組を進めることが必要。そのため、半導体産業集積強化推進本部の下に、新たに生活サポート部会を設置する。この部会では、台湾からの赴任者や御家族などのニーズをしっかりと把握し、市町村や商工団体と連携しながら、きめ細かな対応を図っていく。そして、外国人と地域住民の双方が、熊本に来てよかった、台湾の方々に来てくれてよかったと思えるような環境づくりを進めていく。

②セミコンテックパーク周辺の道路計画について

中村亮彦質問

セミコンテックパークの周辺地域へ進出する企業の動きを捉え、地域経済の活性化はもとより、環境、教育、福祉などの生活環境の向上を図る必要がある。地域の生活

④阿蘇くまもと空港の新旅客ターミナルビル開業に向けた取組について

中村亮彦質問

空港周辺地域の発展は今後、更に重要であると認識しており、新しく生まれ変わる空港が、これまで以上に地域経済をけん引していく役割を担っていくためには、周辺地域との連携が必要不可欠であると考え。そこで、①「新旅客ターミナルビル」の開業に向けた準備状況についてどの様な状況か、②「空港周辺自治体や地域との様」に連携していくのかについて、開業後の整備スケジュールも含めて、企画振興部長に尋ねる。



企画振興部長の答弁

①新旅客ターミナルビルについては、現在、建物の最終工事が行われており、年明け1月には、施工業者から熊本国際空港株式会社へビルの引渡しが行われる。引渡し後は、航空会社による内装工事やオペレーションの確認などが予定されており、計画どおり準備が進んでいる。②新旅客ターミナルビル開業後、隣接する現国際線ターミナルビルを解体し、その場所に地域に開かれた広場を整備して、空港にぎわいをつくる計画となっており、令和6年夏頃に供用開始予定としている。空港周辺地域の皆

再生 → 議員名を選ぶ → 録画中継 → 熊本県議会インターネット中継

録画中継 をご覧いただけます。 スマホ・パソコン等で熊本県議会の本会議の

や産業活動を支える道路ネットワークの役割はさらに重要となり、最も根幹的な社会基盤である道路の整備を迅速に進めてほしいと考える。そこで、セミコンテックパーク周辺の渋滞対策、アクセス対策として整備を進めている①菊陽空港線、②大津植木線の多車線化、③合志インターチェンジのアクセス道路整備の現在の具体的な取組状況を土木部長に尋ねる。



土木部長の答弁

①菊陽空港線は、本年6月に、県と菊陽町が合同で地元説明会を開催し、その後、用地に係る境界の立会いや建物等の調査を行い、9月から用地交渉を進めている。また、JR豊肥本線をまたぐ橋梁部については、既に詳細設計が完了し、現在、鉄道事業者と、施工の役割分担や工程調整など、工事の円滑な実施に向けた協議を行っている。②大津植木線の多車線化については、世界有数の半導体生産拠点にふさわしい玄関口となるよう、将来の交通量増加を見据えた道路構造や周辺環境と調和した道路景観の形成等について、具体的な検討を進めている。③合志インターチェンジへのアクセス道路については、現在、住宅密集地を避けて、一部がバイパスとなるルートを検討しており、今後、地元自治体と協議を進めていく。この2つの道路については、今年度中に協議、検討を終え、速やかに詳

様をはじめ、より多くの皆様に、地域に開かれた広場を御活用いただき、にぎわいのある空港になることを大変期待している。今後、熊本国際空港株式会社、空港周辺地域の皆様と一緒に、阿蘇くまもと空港の拠点性を高め、地域に開かれた空港、地域に愛される空港となるよう努めていく。

⑤白川中流部の河川整備の取組について

中村亮彦質問

白川の河川整備については、上流部の阿蘇黒川区間、中流部の菊陽町・大津町区間、下流部の熊本市区間の3区間を同時に進めていることから菊陽町・大津町の沿川住民も喜んでいる。そこで、白川中流部の菊陽町・大津町区間の河道掘削、堤防整備、堰の改築といった河川整備の現状と今後の取組について、土木部長に尋ねる。



土木部長の答弁

白川中流部の菊陽町と大津町の区間においては、毎秒1.500立方メートルの流量を安全に流すことを目標として、下流から整備を進めることとしている。これまでに、下流側のみらい大橋から辛津橋までの2.3キロメートルの区間について、堤防整備や河道掘削の調査、設計を完了し、

細設計や用地測量に着手していきたいと考えている。引き続き、国や地元自治体とも連携しながら、セミコンテックパーク周辺の道路ネットワークの整備について、スピード感を持って取り組んでいく。

③県立技術短期大学の人材育成の取組について

中村亮彦質問

県では、TSMCの進出決定以来、県庁内に「半導体産業集積強化推進本部」を設置、その下に設置した部会を中心に、渋滞・交通アクセス、教育環境、環境保全を含め様々な課題に取り組んでいるが、その中でも、人材の育成・確保は非常に重要な課題であると思われる。そのような中、県立技術短期大学校にとっても、今回のTSMCの進出は、ひとつの大きな転機となりうる出来事であり、これまでの大学校の歩みを振り返り、将来に向かっての新たな飛躍を考えるべき時期なのではないかと考える。そこで、県立技術短期大学校におけるこれまでの人材育成とTSMCの進出を踏まえた新たな取組にはどのようなものがあるか、商工労働部長に尋ねる。



商工労働部長の答弁

県立技術短期大学校は、長年にわたり熊本6月には、住民の皆様へ事業計画の説明会を開催した。現在用地測量を進めており、用地取得後は速やかに工事に着手していく。また、さらに上流側の整備に向けて、鼻ぐり大橋から上流の5.4キロメートルの区間についても、馬場橋堰の改築や堤防整備等の設計に着手しており、順次整備を進めていく。県としては、これらを着実に進めるとともに、近年の気候変動による水災害リスクの増大に備えて流域治水を推進し、白川流域の安全、安心の確保に向け取り組んでいく。



地域住民の陳情要請活動



県議会一般質問